

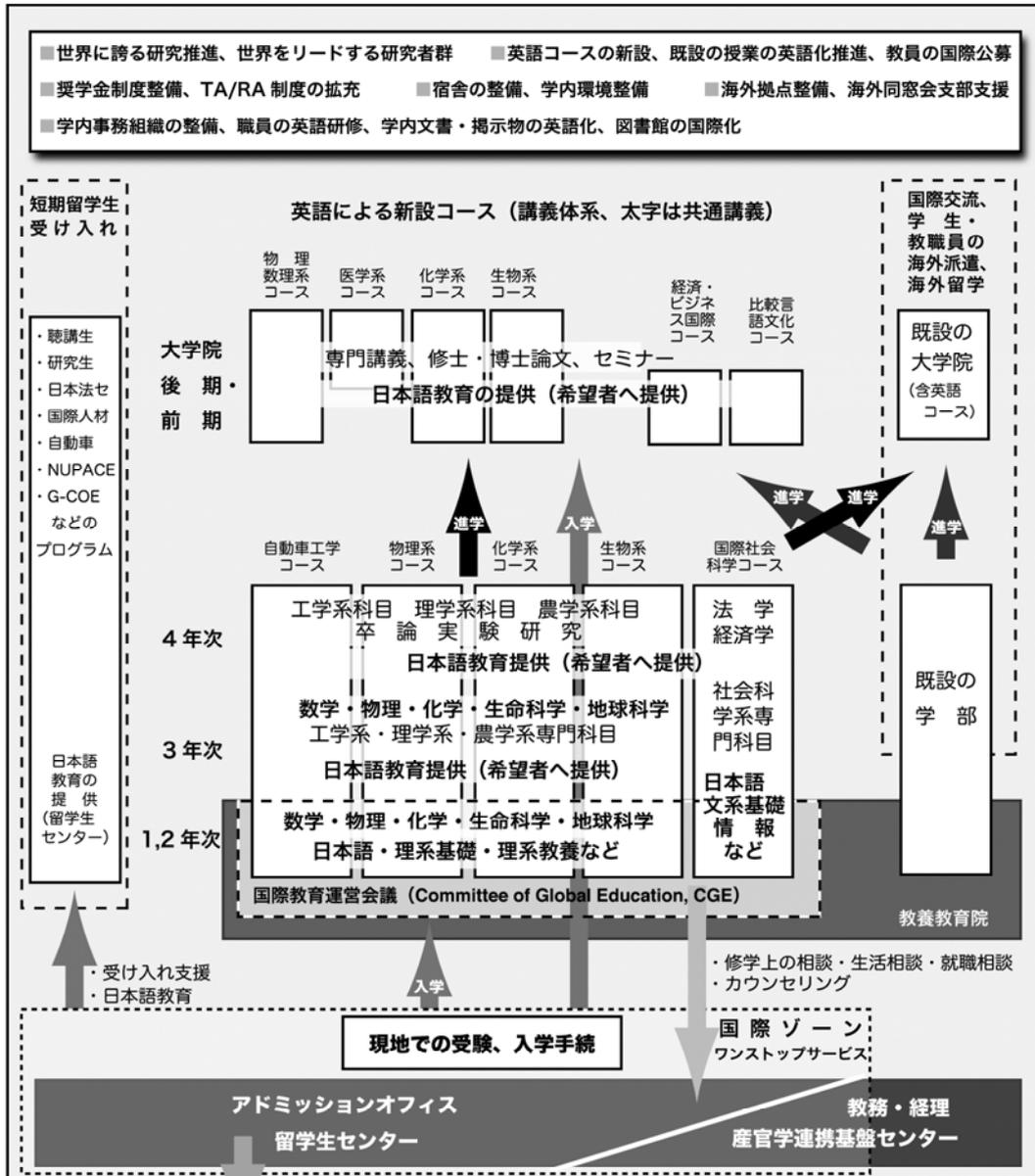
拠点大学の概要及び採択理由

機 関 名	名 古 屋 大 学
<p>〔国際化拠点の構想の概要〕</p> <p>名古屋大学は、学術憲章において「国際的な学術連携及び留学生教育を進め、世界とりわけアジア諸国との交流に貢献する」と宣言し、中期計画では「優秀な留学生を受け入れ、海外の大学に派遣する本学学生を増やすための支援体制を整備する」と定めている。平成20年5月1日現在、全学生15,682名中、留学生は74カ国からの1,214名である。このうち、大学院博士前期（3,661名）、後期課程（2,320名）における留学生の割合は、それぞれ10%、18%である。一方、学部在籍するのは133名で、全学部学生9,701名に対して、わずか1.4%にとどまっている。</p> <p>本学関係者4名がノーベル賞を受賞する等、名古屋大学は学術研究面で輝かしい成果を上げている。しかし、国際的なスケールで学生を惹きつけるまでには至っていない。そこで、これまで実施してきた質の高い学部・大学院教育を留学生にもより広く提供し、国際的に活躍できる人材を育成するため、日本人学生と留学生が共に学ぶ新たな環境を構築することを目指す。本学がわが国の大学を国際化する拠点となり、世界のNagoya Universityへと転換していくための、戦略的諸施策を以下のとおり実行する。</p> <p>【英語コースの新設】現状では、海外の高校生や大学生が名古屋大学への進学に興味を抱いていても、日本語力が全くない場合には進学をあきらめざるを得ない。本構想は、すでに英語のみで実施している大学院コース（法学・工学・国際開発・環境学の各研究科）の受入れ枠拡大に加えて、英語のみで卒業可能な、理系（理学・工学・農学）及び文系（法学・経済）の学部コースを新たに設置し、さらに、博士前・後期課程についても理系・文系に同様な国際コースを設置することを基本としている。これらのコースは、現在日本語で開設されているものと同じレベルであり、卒業・修了要件もほぼ同一となっている。</p> <p>【既存短期留学生コース・日本語教育の充実】本学の短期留学受入れプログラム（NUPACE）の受入れ枠拡大など、多様な留学生を受け入れる仕組みを整備する。英語コースの留学生に対して、外国語としての日本語の単位取得を必修とし、日本人学生との交流や日本文化に接する機会の提供に努める。本学では、グローバルCOE拠点形成プログラム等による留学生・海外の共同研究者の受入れ等を通じて、大学院における教育研究環境の国際化を進めてきた。これを核にして、引き続き受入れ環境を整備していく。海外で教育研究に1年以上携わった者が約28%おり、本学教員の多くは英語による講義が可能であるが、引き続き外国人教員数の増加、若手教員の海外教育研修等に努める。</p> <p>【学生の募集活動（海外拠点の活用・広報の強化）】教職員が常駐している本学の国際交流拠点（ベトナム、ウズベキスタン、米国、中国、モンゴル、カンボジアなど）や、本学が主導している国際的な大学連携組織 Academic Consortium 21 (AC21)加盟校、海外同窓会支部などと協力し、積極的な学生募集活動を行う。同時に、Webサイト等を活用した広報活動を強化し、Web上で受験手続を可能にするシステムを整備する。</p> <p>【多様な選考方法による優秀な留学生の選抜】学部入試では、AP試験や「日本留学試験（日本学生支援機構）」、GPA、TOEFL等を活用し、現地での入学試験を積極的に実施する。一部に指定校制度を設ける。大学院入試では、TOEFL、書類選考、現地面接に加えて、テレビ会議システムを用いた面接など多様な選考方法で優秀な留学生の獲得に努める。</p> <p>【附属高校】日本語コースを設けている海外の拠点高校と名古屋大学附属高校間で交換留学制度を整備し、名古屋大学への進学を推進する。</p> <p>【奨学金・授業料減免など】大学の独自資金に加えて、産業界からの寄付などを活用し、成績が特に優秀な留学生に対しては、入学金・授業料免除を実施し、奨学金の支給などを行う。</p> <p>【留学生の利便性向上】クレジットカード決済、海外拠点口座の活用など海外から入学検定料などを送金しやすいシステムを作る。合格者に対する入学前のオリエンテーションを現地で実施するなど、利便性の向上を図る。</p> <p>【チューター・TA・RA】英語コースに入学する留学生に対しては、学生をチューターとして配置する。学年進行に伴い、留学生をTAやRAとして積極的に採用する。</p> <p>【事務体制の整備】留学生のあらゆる手続き・相談に対応するワンストップオフィスとして、現在分散している窓口を一カ所に集中した国際ゾーンを整備する。また、優秀な学生の募集活動や受験の受付業務を英語で行うアドミッションオフィスを整備する。英語で対応可能な職員の増員と研修の強化、学内文書・掲示板等の英語併記を早急に進める。</p> <p>【図書館等の留学生対応】既に留学生に配慮した図書館作りを行ってきたが、英語コースに関連する参考図書・海外の新聞や雑誌の充実など、利便性向上に努める。</p> <p>【生活環境の整備】留学生の増加に対応する宿舍の整備を進める。現在、独自資金によって100名規模の留学生宿舍建設を開始した。今後、民間からの提供を含めて、十分な宿舍確保に努める。ハラルフードの提供等はすでに実施しているが、ベジタリアンや日本食を受け付けにくい留学生に対する多様なメニューの提供を、現在在学中の留学生や学生食堂運営者と検討する。</p> <p>【キャリア支援、インターンシップなど】国内企業等への就職を希望する留学生に対して、オリエンテーション、キャリアパス教育に加え、自動車工学に関する夏季プログラムなど本学独自の取り組み、企業や経産省、愛知県と連携した多様なインターンシッププログラムを提供する。</p> <p>こうした施策によって、5年後には留学生総数2,100名、平成32年度末には3,000名の達成を目指す。一方、外国人教員比についても、平成32年度末には全教員の7.5%を目指す。</p>	

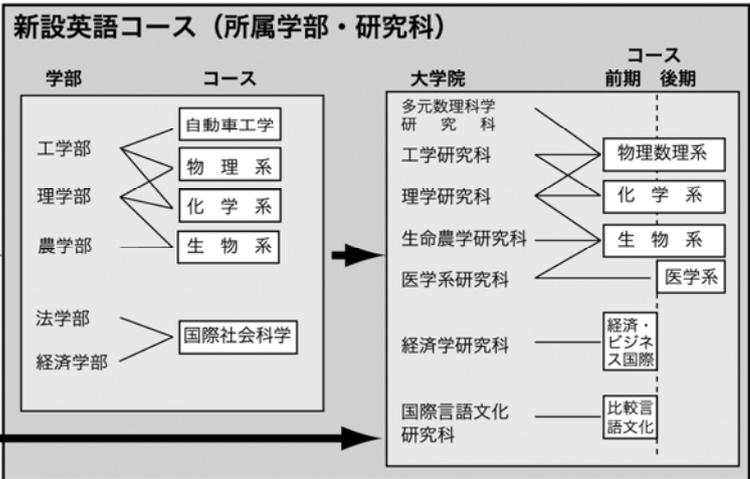
【名古屋大学】

国際化拠点の概念図(海外における留学を促進するための取組、国内における留学生の受入のための取組について、構想の達成目標と取組計画をわかりやすく図示してください。)

名古屋大学



米国・ベトナム・ウズベキスタン・中国・インド・モンゴル・カンボジアなど



大 学 名	名古屋大学
-------	-------

〔採択理由〕

名古屋大学の国際化に関し、海外大学との国際的な連携をはじめとする、多数の留学生受入のための様々な取組の実績が非常に優れており、今後の留学生の受入の更なる充実が大いに期待できる。また、国際化拠点の整備のための構想は、留学生受入の拡大に向けて全学的に取り組む体制を構築し、多くの学部・大学院で留学生にとって魅力ある教育の取組が具体性をもった計画として策定されており、本事業の趣旨に十分に適合しているとともに、これまでの実績を踏まえたものとしてその実現性も高く、我が国を代表する国際化拠点としての成果と今後の展開が十分に期待できる。

〈特に優れた点、期待できる点、留意すべき点〉

- ・ 英語による教養科目を学部間の垣根を越えた共通科目として設置することにより、過度に教員の負担増を生じさせない工夫をしていると評価でき、今後の更なる全学的な国際化の展開を期待させるものになっている。
- ・ 留学生受入のための宿舎整備、留学生受入のサポート体制の充実ぶり等から、優れた留学生支援体制を構築していると評価できる。